

さくら保険サービス通信

〒830-0016 福岡県久留米市通東町3-5杉本ビル2F

TEL 0942-37-7351 FAX 0942-37-7352

さくら保険サービスのURL <http://www.sakura-hoken.com/>

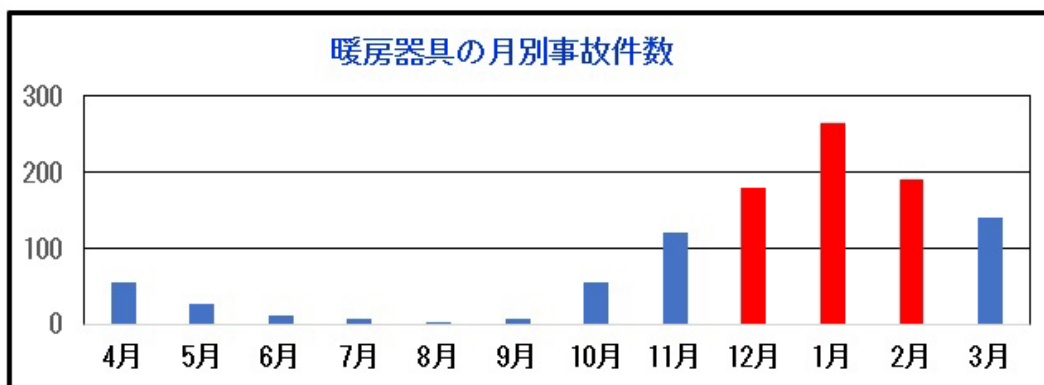
18年
12月号

あなたもわずか30秒で情報通! 活用法いろいろ コミュニケーションペーパー

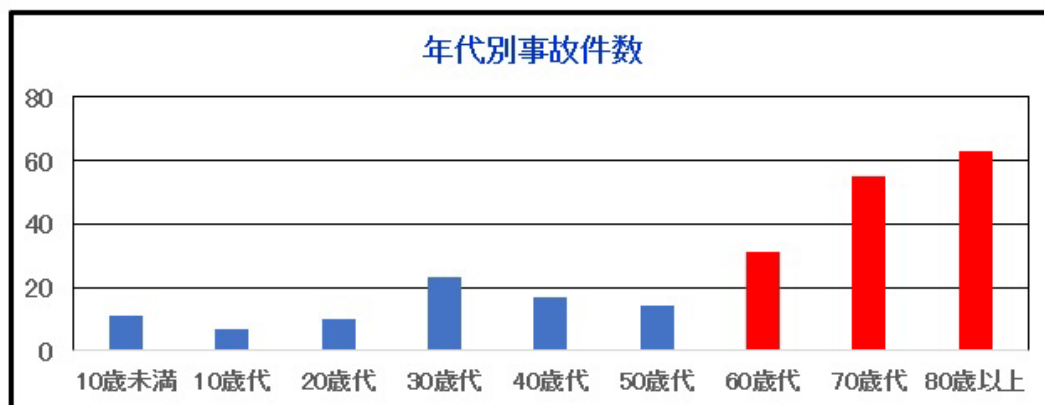


暖房器具事故 いつ多いか? 年代は?

独立行政法人製品評価技術基盤機構の暖房器具の事故データ「月別事故発生件数」と「年代別事故発生件数」によるとこれから迎える厳しい寒さの季節になる12・1・2月に事故件数が急激に増加します。年代別ですと年代があがるにつれて事故件数が増えていきます。特に60・70・80歳代以上の高齢者の事故が増加しています。



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
55	27	12	7	3	7	55	121	180	266	190	141



10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
11	7	10	23	17	14	31	55	63

さくら保険サービス通信

〒830-0016 福岡県久留米市通東町3-5杉本ビル2F

TEL 0942-37-7351 FAX 0942-37-7352

さくら保険サービスのURL <http://www.sakura-hoken.com/>

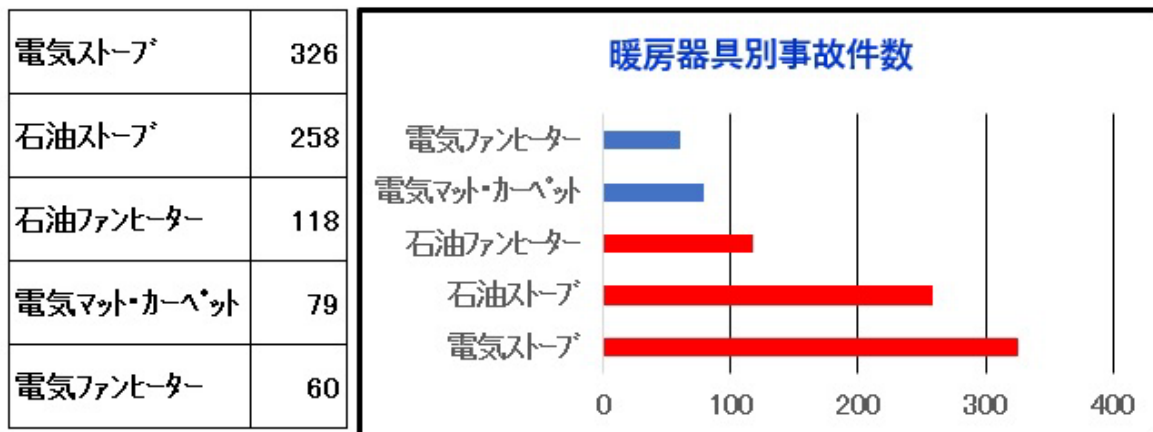
18年
12月号

あなたも **30秒** で情報通! 活用法 いろいろ **コミュニケーションパー**



暖房器具事故 器具別発生原因ベスト3

暖房器具のなかで事故発生が多いのが下のグラフで「電気ストーブ」「石油ストーブ」「石油ファンヒーター」です。各暖房器具別の事故原因ベスト3を一覧表にしました。「電気ストーブ」は燃えやすいモノを置いていたことで事故発生。石油ストーブは給油口閉め忘れのウッカリミス。石油ファンヒーターはガソリン給油。しっかり気をつけましょう。



電気ストーブ事故原因ベスト3

- 1 燃えやすいモノが電気ストーブの放射熱、過熱または接触して事故が発生
- 2 電源コードを繰り返し引っ張り、折り曲げるなどでコードが断線、ショートして発火して事故が発生
- 3 電源プラグの刃受け、プラグ内部が接触不良などで異常発熱して事故が発生

石油ストーブ事故原因ベスト3

- 1 給油口のふたの閉め忘れ、締め付け不良によって引火事故が発生
- 2 燃えやすいモノが石油ストーブの放射熱、過熱または接触して事故が発生
- 3 石油ストーブにガソリンを給油して出火事故が発生

石油ファンヒーター事故原因ベスト3

- 1 石油ファンヒーターにガソリンを給油して出火事故が発生
- 2 燃えやすいモノが石油ファンヒーターの放射熱、過熱または接触して事故が発生
- 3 給油口のふたの閉め忘れ、締め付け不良によって引火事故が発生



電気・石油ストーブ、ファンヒーター の事故例集

■電気ストーブ・ファンヒーター事故例集

1. 可燃物の接触

2016年11月 愛知県、80歳代・男性、死亡。

【事故の原因】

電気ストーブの前面ガードに繊維状の可燃物が接触して発火し、火災が発生。

2. 就寝中に低温やけど

2013年11月に香川県、70歳代・男性、軽傷。

【事故の原因】

使用者が1メートルほど離れた場所に電気ストーブを設置し、電源を入れたまま就寝したため、放射熱により低温やけど。取扱説明書に「長時間同じ姿勢で使用しない。熱いと感じたら本体を離すか、パワー調節の設定を低くする。」
「就寝中は使用しない」旨、記載されていた。

3. 電気ファンヒーターでやけど

2015年12月 女児、軽傷。

【事故の原因】

保護者が目を離した隙に幼児が高温となっていた天板と前面板の角につかまったまま手を離さなかったことから、やけどを負う。

■石油ストーブ・ファンヒーター事故例集

1. 灯油がこぼれて引火

2018年1月 栃木県、年齢不明・男性、死亡。

【事故の原因】

使用者がカートリッジタンクのふたを十分に締めていなかったため、タンクをストーブへ戻す際にふたが外れ、灯油が漏れ、漏れた灯油が高温状態の燃焼部にかかり、火災となる。取扱説明書に「給油時は必ず消火する。給油後にふたを確実に締め、油漏れがないことを確認する。ふたを斜めにならないようにしっかり締める」旨、記載されていた。

2. ガソリンの誤給油による火災

2016年1月 神奈川県、70歳代・男性、死亡。

【事故の原因】

使用者がカートリッジタンクに誤ってガソリンを給油して点火したため、異常燃焼を起こし、火災に至ったものと考えられる。なお、取扱説明書及びカートリッジタンクに「ガソリンの使用禁止。火災の原因になります」旨、記載されていた。



電気・石油ストーブ、ファンヒーターの事故防止策は？

■給油事故防止の3ステップ

- ①給油の際には必ず消火してから。
- ②給油後はカートリッジタンクのふたを確実に締めたか確認する。
- ③灯油タンクから石油がもれていないことを確認してからセットする。

- ・給油の際に消火せずに給油作業をして事故に至ったものがあります。絶対ダメです。
- ・ストーブが消火状態でも、再点火した際に、こぼれた灯油に引火した事故や消火直後の高温状態の燃焼部に灯油がこぼれて発火した事故が発生しています。

■衣類をストーブの上、前に置かない

- ・衣類を電気ストーブの上で乾燥させると、軽くなった衣類が上昇気流で落下し、高温部に接触して火災に至るおそれがあります。
- ・ストーブ前で干しても、放射熱によって過熱された空気対流によって衣類などが高温部に接触して火災事故の発生になります。絶対、ストーブの上、前に置かないこと。

■電源スイッチを切る

- ・部屋を暖めようとするなどして使用中にその場を離れている間に、可燃物が接触して火災が発生した事故があります。使用しない時、外出時などには電源スイッチを切り、電源プラグを抜くこと。

■就寝時には使用しない。

- ・つけたまま就寝することは火災のおそれがあり危険です。寝具が高温部に触れるなどによって着火するおそれがある上、外出時と同様に発見が遅れ、大きな火災となる原因になります。就寝時の使用は絶対にしなすこと。

■電源コードは丁寧に扱う。

- ・電気ストーブやファンヒーターでは、電源プラグと電源コードの付け根で電源コードが断線し、スパークが発生し火災に至っています。電源プラグをコンセントに差し込んだまま製品を移動させないこと。
- ・保管時に電源コードを本体にきつく巻き付けないこと。断線の原因になります。